

私たちは、患者さんの人権を尊重し、
 地域に必要な基幹的中心的な医療を
 担当すると共に、さらに高次の医療に
 対応できるよう努力します。

2017 Spring Vol.049

編集：広報委員会・広報課

印刷：有限会社 アクト

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17

TEL075-391-5811(代)



katsura

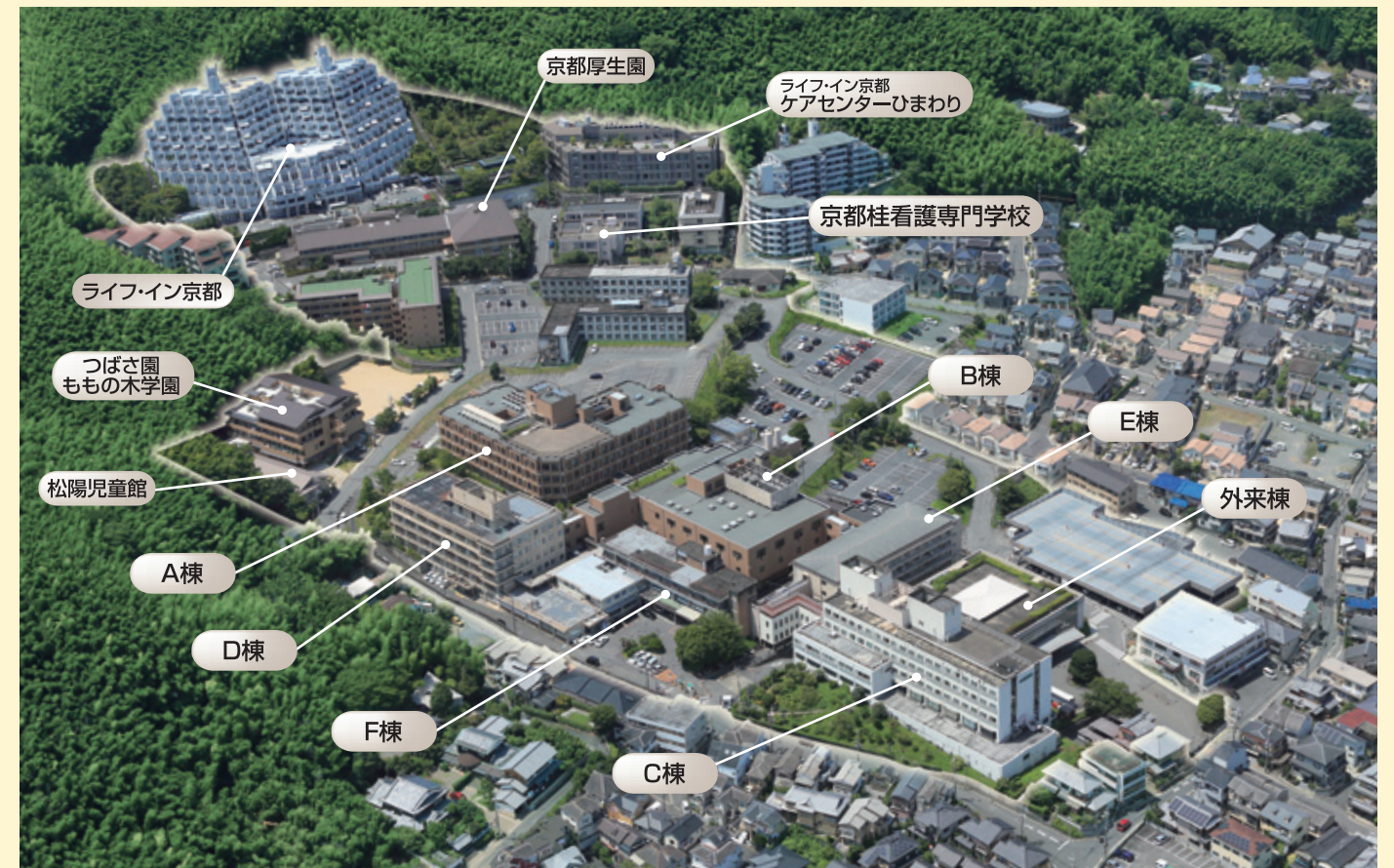
http://www.katsura.com

竹林公園 ジャガの花 (撮影 桐山豊三郎)



Index

ホスピタルインフォメーション	2
平成29年度を迎えて	
専門医がお答えます - 第42回 新しい京都桂病院 脳神経外科	3
シリーズ がん患者サロン「きずな」座談会 ②	4
ナースの広場	6
第3回 専門・認定看護師セミナーを終えて	
連携医ネットワーク	6
当院の医師・職員紹介	7



許可病床数

●585床 (一般525床：結核60床)

診療科目

- 一般内科 ●血液内科 ●脳神経内科 ●内分泌・糖尿内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ科 ●化学療法内科
- 心臓血管センター (心臓血管内科・心臓血管外科)
- 消化器センター (消化器内科・外科) ●乳腺科
- 呼吸器センター (呼吸器内科・呼吸器外科)
- 整形外科 ●形成外科 ●泌尿器科 ●産婦人科 ●眼科
- 耳鼻咽喉科 ●脳神経外科 ●皮膚科 ●小児科
- 緩和ケア科 ●精神科 ●リハビリテーション科
- ペインクリニック科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科
- 血液浄化センター ●健康管理センター

●京都桂臨床医学研究所(臨床試験センター) ●保育所

併設施設

- 京都桂看護専門学校 (全日制3年課程)
- 訪問看護ステーション「桂」

関連施設

- 西陣病院 ●にしがも透析クリニック
- 京都厚生園 ●京都桂川園 ●にしがも舟山庵
- 北野保育園 ●二条保育園 ●昭和保育園
- つばさ園 ●ももの木学園 ●松陽児童館
- ライフ・イン京都



交通のご案内

市バス

- 73系統 (京都駅～洛西バスターミナル)
 - 29系統 (四條烏丸～洛西バスターミナル)
 - 69系統 (二条駅西口～阪急桂駅東口)
- それぞれ「千代原口」下車、徒歩約10分

京阪京都交通バス

- 21、27系統 (京都駅～桂坂中央)
- 「千代原口」下車、徒歩約10分

阪急電鉄

- 京都線「桂駅」下車
- (西口)西へ約1.7km

病院専用送迎バス (約15分)

「阪急桂駅」及び「JR桂川駅」からは送迎バスを無料でご利用いただけます。

「JR桂川駅 送迎バスのりば」
 (阪急桂駅西口の送迎バスのりばは、上記地図を参照してください。)



社会福祉法人 京都社会事業財団
京都桂病院
 http://www.katsura.com

平成29年度を迎えて



院長 若園 吉裕

新しい年度を迎え本院でも種々の職種を合わせて109名の入職がありました。気分も新たにさらに地域に根ざした医療を展開したいと考えています。さて行政が進める地域包括ケアの考えによると、74歳まではできるだけ仕事を続け活躍し、地域においては共助・公助以外の自助、互助を高め、生活圏内で医療を含め日々の生活の充実を図る必要があります。また地域医療構想では病床機能報告を行い各々の病院の役割をはっきりさせることが求められており、本院は地域の高度急性期・急性期を担当することを報告させていただいております。本院のVisionは「一番大切な

人を受診させたい病院になる」・「治療を受けてよかった受けたい病院になる」・「働いてよかった働きたい病院になる」です。これらを実現するためにさらに質の高い医療を提供したいと考えております。またこれらの医療を担保するために平成31年度には内科系の病棟を集約した新棟を、平成33年度には救急やICU・SCU・HCU設備を充実させた新棟を建築する予定です。また本年4月より脳神経外科が充実し血管内治療を含めあらゆる脳神経外科疾患に対応できるようになります。脳神経内科と合わせ脳神経部門が充実しますのでどうぞご利用くださいますようお願いいたします。

さて本年度の行動方針は「**連携の充実と発展**」です。連携は院内・院外両方向に対して考えています。院外との連携では、本院は地域における高度急性期・急性期を担当しますので、その時期が終了すれば、機能の異なる回復期などの病院や診療所に転院いただくできるように地域の医療機関とますます連携を進めてゆきたいと考えております。同時に回復期の病院への転院をお願いした患者さんなどが急変したり救急患者となった場合は速やかに本院に受け入れる環境をさらに整備したいと思います。また紹介（診療所・病院から本院へ）・逆紹介（本院から診療所や回復期

の病院へ）もさらに推進し、それぞれの医療機能の役割分担を果たしてゆきたいと考えております。さらに高齢者やがん患者の増加により口腔ケアは非常に重要になってきていますので、地域の歯科医師会ともさらに強く連携してゆきたいと思っております。加えてかかりつけ薬局や施設などとの連携も強化してゆきます。一方院内の連携については、高齢化社会を迎えて1人の高齢者がたくさんの方を抱え、いろいろな科が関連して治療してゆくことが多くなってきており、各科の連携も多職種の連携もさらに深めてゆきたいと考えています。今年度もどうぞよろしく申し上げます。

ホスピタルインフォメーション

専門医がお答えします
第42回

新しい

京都桂病院 脳神経外科



脳神経外科 部長 中島 教夫

京都桂病院では、4月より新しい脳神経外科がスタートします。

メンバーは部長の中島、血管内治療のスペシャリストである川端そして顧問として元浜松労災病院 副院長の三宅の3人です。いずれも日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会の専門医の資格を有しています。また私と川端は日本脳神経血管内治療学会の専門医の資格も有しています。このメンバーで脳神経外科疾患全般にわたり迅速で質の高い医療を提供していきます。



近年、脳神経外科疾患に対する治療、中でも脳卒中に対する治療は大きく変化しようとしています。脳卒中は脳の血管が詰まったり破れたりする病気です。その脳卒中に対してコイル塞栓術や血栓回収療法など頭を切らずに治療する方法（血管内治療）はめざ

ましい勢いで発展しています。京都桂病院では、その血管内治療を行うためにフィリップ社製の最新鋭の血管撮影装置を導入しました。被ばく線量と造影剤使用量を大幅に低減させているにもかかわらず、高画質を維持できる装置で、今までにない低侵襲治療を患

者さんに提供できる装置です。この最新鋭の血管撮影装置を使用し、安全で質の高い最先端の治療を提供できると確信しています。脳卒中は外科治療だけで治療できる疾患ではありません。内科治療やリハビリテーションも同時に行わなければなり

ません。すなわち病院としての総合力が問われます。京都桂病院では脳卒中を熟知した脳血管内科医3人が勤務しております。そしてリハビリテーションを行う理学療法士23人、作業療法士6人、言語療法士4人が勤務していますので、チーム医療による質の高い脳卒中治療が可能です。また脳卒中の患者さんは他の疾患を合併していることも多く、他科との連携が重要です。京都桂病院は総合病院ですので他科の協力も十分に得ることができます。京都桂病院では脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科など様々な領域の専門医が密に連携して脳卒中と闘ってまいります。

がん患者サロン「きずな」座談会

②



がん患者サロン「きずな」外観
(外来正面玄関 横)

司会 これから、がん患者サロン「きずな」での第2回座談会を開催致します。参加者の方から薬に関する日々の疑問について薬剤科の古田さんに答えていただきたいと思えます。まずは、薬剤科ではどのような仕事があるのか、古田さんが普段どのような仕事をされているのかをお話いただきたいと思えます。

古田 入院薬局はF棟2階にあり、30名以上の薬剤師が業務を行っています。調剤（処方箋に基づいて薬を作る）、病棟業務、抗がん薬などの注射薬無菌調製、DI業務（院内スタッフに対して、薬に関する情報収集や発信をする）、薬品管理など様々な業務を行っています。病棟では各病棟に担当薬剤師2名を配置し、1名は朝夕方まで常時病棟で仕事をす

る体制をとっています。病棟薬剤師は、患者さんに薬の効果や副作用などの説明を行う服薬指導、医師や看護師と協働して適正な薬物治療を行うための提案や相互作用の確認、使用した薬剤の効果や副作用の評価などを行っています。また、患者さんご自身で薬を管理できない場合は、患者さん個々の専用トレイに薬をセットするカートセットを行っています。

患者 何年前から薬剤師さんは病棟で仕事をされているのですか。

古田 20年以上前になります。当院の薬剤科は、他施設と比べて随分前から病棟で仕事を行っており、医師や看護師など多くの職種と情報の共有を行いながら患者さん個々に合わせた薬物療法を相談し提供してきました。

患者 入院した時は、お薬手帳を持参すればいいのですか。

古田 その通りです。入院時に持参された薬とお薬手帳をお預かりし、ご自宅でのように内服されていたか確認します。お薬手帳は複数の医療機関で処方されている薬の情報があり、同じような効果の薬が重複していないか確認することが出来ます。また、入院中に新たに始まった薬と持参された薬の飲み合わせの確認も行っています。

患者 今は、薬剤師さんが病棟で専門的に仕事をしてくださっているのが安心ですね。

司会 それでは、古田さんは普段どのような仕事をされているのでしょうか？

古田 外来患者さんが抗がん薬の点滴治療を受ける「外来化学療法センター」に常駐して業務を行っています。外来化学療法

す。採血結果で腎臓や肝臓の数値が悪化している場合、抗がん薬によっては減量や延期などが必要になるため、その情報を医師と共有し、その日の患者さんの状態にあわせた抗がん薬の量で投与を行っています。医師、薬剤師、看護師など多くの職種で患者さんを見て、その日の抗がん

薬治療が実施できるかどうか判断しています。

患者 採血した後に一時間ほど待っているからなのですね。

古田 はい、そうです。採血結果が出て、診察室で主治医から「今日は治療を行いますよ」とお話があれば、外来化学療法センターに戻っていただき、

抗がん薬の準備が出来れば点滴を開始します。お待ちいただく時間がありますが、採血結果が出た後に患者さんの状態に合わせた薬の量を医師が指示し、薬剤師が混合調製しています。

抗がん薬の点滴が開始となれば、薬剤師は病棟と同様に患者さんに服薬指導や副作用の確認を行います。新しい抗がん薬治療を受ける患者さんに対しては、どのようなスケジュールで行うのか、何種類の抗がん薬を使用するのか、点滴だけでなく内服を組み合わせるの

患者 先生と常に相談しながら薬を出していただいているということですね。

古田 外来化学療法センターでは、月曜日から金曜日の9時30分、11時30分、13時30分の3つの予約枠で治療を受けていただいています。

患者 治療を受けて帰宅後に体調を崩すことがあると思うのですが、その場合に相談を受けることはありますか。

古田 平日の8時30分～17時30分は、外来化学療法センターにスタッフがいて相

司会 最後にみなさんにお伝えしたいことがあればお願いします。

古田 私たち薬剤師は、患者さんが安全で安心な薬物治療を受けていただくために日々仕事をしています。もし、薬のことでも分からないことがあれば、いつでも気軽に相談下さい。



薬剤科 薬剤師
副主任
古田 祐美子
Yumiko Furuta

